

【背景】

第2期科学技術基本計画(平成13年3月)

「安心・安全で質の高い生活のできる国」の実現に向けて
- 知による豊かな社会の創成 -
かつて、同じ art であった文化芸術と科学技術
文化芸術と科学技術に別れ、更に、どちらも細分化



文化芸術(文化資源)と科学技術を融合して新しい価値を創り出す必要性
「社会のための科学技術、社会の中の科学技術」とするため、再び統合の要請

【調査審議の視点】

文化資源の保存・活用・創造を支える科学技術の振興

文化芸術と科学技術の再融合を目指す

【提言のポイント】



文化資源の保存を支える科学技術の振興

- ・遠隔探査、地中レーダー探査など文化資源の探査のための研究開発
- ・放射性炭素年代測定など文化資源の科学的年代測定のための調査研究
- ・先端科学と文化芸術の融合による文化資源の科学的分析のための調査研究
- ・有形文化資源の保存修復技術の研究開発
- ・デジタル化など無形の文化財の保存・伝承を支援する科学技術の調査研究
- ・国際的な取組の推進(国際的な技術協力)

文化資源の活用を支える科学技術の振興

- ・人工現実感技術による文化資源の保存・展示

文化資源の創造を支える科学技術の振興

- ・日本の魅力を高める観点からのメディア芸術関連技術の振興
- ・メディア芸術の新たな表現を支援する情報処理技術の振興

文化資源の保存・活用・創造を支える科学技術の課題

- ・関係者の連携が取れているか(関係機関と産業界の一層の交流・協力)
- ・既存の専門分野に捕らわれていないか(文化芸術と融合させた科学技術)
- ・実用に耐え得る技術となっているか(現場で使いやすい技術)
- ・社会の需要に応えられる人材となっているか(幅広い視野と柔軟性のある若手研究者の育成)
- ・科学技術と社会との意思疎通ができていないか(社会の需要に応じた科学技術)
- ・次世代の主要産業を支えられるか(メディア芸術振興のための技術基盤整備)



科学技術が支える心豊かな社会

最先端の科学技術を使った遺跡探査

文化資源の科学的年代測定

伝統技能の保存・伝承を支援する科学技術

情報通信技術による文化遺産の展示



科学技術を用いた
文化資源の保存・活用



国際的な貢献

経済的・技術的先進国として
海外の文化資源の探査・保存
について協力



Conservation Materials:

- Epoxy resin
- Epoxy mixed with powder of the soil
- Epoxy (plaster) mixed with marked tuff
- Stainless steel bar

文化芸術の振興に関する基本的な方針
(平成14年12月)

- ・文化財等の保存及び活用について科学的な調査研究の成果を生かした取組
- ・国際協力等の推進
- ・情報通信技術の活用の推進 など

日本のメディア芸術に対する海外の高い評価

Gross National Cool(国としての格好のよさ)

新たな主要産業としての可能性

科学技術による新しい
文化資源の創造の支援

諸外国の追い上げ

